

ほっとクリニック

町立金山診療所だより 99

金山町大字金山548-2 ☎52-2915



眼底検査で分かること

町立金山診療所
診療放射線係長 柴田 寿彦

皆さん、眼底検査を受けられたことはありませんか？

眼底検査とは、瞳孔の奥・眼球の内側にある底の部分（眼底）を眼底カメラで撮影して、網膜・脈絡膜・硝子体・視神経乳頭などの異常を調べる検査です。したがって、眼底検査と言うと、ほとんどの方は眼科でのみ行われる検査と思われることでしょう。確かに、皆さんご存じの白内障や緑内障・眼底出血・網膜剥離などは、眼科で見られることの多い疾患で、症状が既にある状態で受診した場合に見えます。

眼の病は、二次的な要因で発症する血管性の病が多く、例えば「糖尿病性網膜症」では、名前のごとく糖尿病でもろくなった血管の出血、軟性白斑を複数箇所で見られます。また、網膜動脈硬化症は、高血圧により網膜に動脈硬化が発生し、眼

底写真では脈に圧迫された静脈が認められます。動脈が更に硬くなると、静脈が詰まり出血します。これが、網膜静脈分枝閉塞症です。また、動脈硬化症では、動脈瘤が発生しやすくなり、動脈瘤破裂を認めることもあります。

慢性疾患として知られる高血圧症や糖尿病・高脂血症で通院される患者様に対し、経過観察・管理する目的で、眼底検査を定期的に行う施設もあります。また、眼底検査で脳腫瘍を発見するといったケースもあります。眼底内の視神経乳頭にうっ血や浮腫を認めた場合は、脳腫瘍が疑われます。

失明の危険性の非常に高い緑内障や糖尿病性網膜症は、自覚症状が乏しいので急激な視野の狭小化や視力低下が現れたときには、かなり進行している場合が多く治療が難しくなります。

早い段階での発見が望めます。このように、眼底検査では、眼自体の疾患はもちろんのこと、他の疾患を発見する機会も多いということから、当診療所では、健診や診察などで眼底カメラによる眼底検査を取り入れております。



左：眼底カメラを使用し、瞳孔を通して眼球の内側にある底の部分（眼底）を撮影します。

右：眼底写真の一例。これで網膜・脈絡膜・硝子体・視神経乳頭などの異常がないかを調べます。